

これからの「はかり」



森島 泰信
Morishima Yasunobu
株式会社イー・アンド・ディ
代表取締役執行役員社長

「ご挨拶」

このたび、一般社団法人日本計量機器工業連合会の理事に選任されました。
本連合会に関係する大勢の方に、より一層お世話になることを思いま
す。微力ながら精一杯務めますので
よろしくお願いたします。

「インジケータとの出会い」

昔話になりますが、まずは弊社
とばかりとの出会いについて記さ
せていただきます。
弊社は1977年に、計測器メ
ーカ1の技術者14名がスピンア
ウトして設立した会社です。
当時はオールショック後の低成
長期だったため、現状を打破する
志を持った仲間が自然に集まりま
した。ところが志は高いものの、
私たちがつくれるものはアナログ
量でデジタルに変換する電圧計し
かりありませんでした。AVD、V/D
変換技術を旗頭に掲げて会社名を
「イー・アンド・ディ」と命名し

リリースしたところ、一気に市場に
浸透していきました。
それが電子天びんは研究室で
用いることが当たり前の特別な機
器でしたが、弊社が電子天びんを
生産現場にも導入できる機器に仕
立てたことで、研究室から生産現
場へと市場が急速に広がったので
す。弊社はやはり業界参入による
一番の功績は、市場を広げたこと
ではないかと考えています。

「ロードセル技術導入」

計量機器の電子化は天びんだけ
ではなく、台はかりにも波及して
いきました。この流れに対応する
ために、弊社は国内のセメント会
社と合併でロードセルの生産拠点
としてリトラ（株）を立ち上げまし
た。創業間もない弊社が人とお金
を工面していただくことができた
のも、いま思えば幸運の連鎖たっ
たように感じます。
昔からはかりは錘物で吹いてつ
くっていましたが、弊社はダイキ
ヤストで生産化することで低コス

「これからの「はかり」」

当社が創業の初年度から計量業

て船出したものの、電圧計はずで
に大手メーカーが手がけていたた
め激しい競争を強いられました。
そんな折、人づてにご紹介いた
だいたはかりメーカーから、ロー
ドセル用のインジケータをつくっ
てほしいとお話をいただきました。
当時はロードセルが普及し始
めた時期でしたが、自社で製品開
発できるメーカーが少なかったの
です。私たちはこれまでロードセ
ルをつくった経験はありませんで
したが、ロードセルの技術は電圧
計の技術とほとんど変わらないこ
とがわかったため、これ幸いと
のお話に乗りました。その後、納
入先に弊社製品を大変高く評価
していただき、次々と製品開発の依
頼を受けることになりました。
ちょうどそのころ、産業界にマ
イコン（マイクコンピュータ）
が散見され始めました。弊社にも
マイコンを取り扱う技術者がいま
したので、すぐにマイコンを搭載
したインジケータを開発しまし
た。従来のディスプレイタイプの
インジケータよりも部品点数が

ト化・低価格化を実現しました。
弊社はもともとエレクトロニクス
業界にいましたので、インシヤル
コストをかけることでランニング
コストを抑える考え方を持ち合わ
せていましたが、この考え方を異
業種のはかり業界でも踏襲するこ
とができたのです。
ロードセル式の台はかりも市場
価格の半値以下での販売に踏み切
り、大ヒット商品になりました。
生産現場において一人一台、効率
的に使える弊社の台はかりが我が
国のモノづくりのお役に立ったの
ではないかと思っています。
このような成功例ばかりではな
く、お恥ずかしい失敗もありまし
た。検定の内容をしつかり理解せ
ずに検定をオポジションとして販売
し始めたのですが、ご指摘を受け
てあわてて撤回したこともありま
す。このときは本当に身が縮み思
いをしました。

少なく、また機能も向上させるこ
とができたため、これを標準化で
きれば大きなビジネスチャンスに
なるのではないかと手こたえを得
てインジケータビジネスに参入し
ました。

「電子天びんとの出会い」

ほどなくして、日刊工業新聞に
弊社がはかり業界に参入したこと
を記事掲載していただいたのが
が、その記事に目を止めた天びん
メーカーの研精工業社の社長から
「電子天びんの開発に協力してほ
しい」との電話を受けました。そ
のころ国内では天びんの電子化は
スタートしたばかりでしたが、海
外メーカーはすでに電子化を完了
して、電子天びんの国産化が
求められていました。
当時のはかり業界はまだ手づく
りの感が否めませんでした。両
社一体となった開発体制でダイキ
ヤスト、プレス、射出成型を用い
、マイコンを搭載した電子天びんを
開発し、市場価格の半値近くで

界にお世話になることで事業の柱
をつくることのできたのは、非常
に幸運だったと思います。その後
も一貫して「はかり」ことにた
わり、血圧計など医療、健康事業
や各種材料試験機、自動車関連試
験機、半導体関連の計測機器など、
幅広いジャンルに挑戦してきまし
た。
これらあらゆる分野において、
「はかり」事業環境は産業のさら
なる高度化にもない大きく変
化しています。グローバル化は
一層拡大していますし、エレク
トロニクスの技術も著しく発展
しています。これらの状況下で
「はかり」技術の重要性はますます
増しています。従来よりもさ
らに緻密で正確な情報をより早
く計測し、有益なデータを提供
できる技術を開発することが、
私たちが計量業界の使命だと見え
ます。

この使命を果たすべく、本連合
会の皆様との連携を深めてまいり
たいと考えていますので、よろし
くお願いたします。

はかる no.143

計量計測
Measuring
Instruments

●CONTENTS
語る
スマートメーターの展開と日本計測計器協会の対応
特集
OHL-CSの対策機種の拡大
会員トーク
これからの「はかり」
New Technology
真実物非破壊品質評価装置フルーツセクター
—近未来の光技術による非破壊品質評価技術—
計測の世界
計測計測と技術・技能伝承 第3回
世界の街角から
ケニアのナイロビにて、建築技術者向け研修に取り組み
ESSAY
「健康ハンドブック」のご紹介
PRODUCTS FILE

